

ホウロクシギ

チドリ目シギ科

Numenius madagascariensis (Linnaeus)

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

春秋の渡りの時期に毎年記録されているが、単独での渡来がほとんどで、個体数は非常に少ない。

形態

全長62cm。翼長28～33cm。体重558～1040g。長くて下方に湾曲した嘴をもち、あし、首の長い大型のシギである。嘴は黒色で下嘴の基部は肉色を呈し、その長さは頭の長さの3倍余になる。上下面とも淡褐色の地に黒褐色の縦斑がある。眉斑と喉は白い。脚は青灰色である。

国内分布

春秋の渡りの時期に日本全土を通過する。

県内分布

春秋の渡りの時期に七尾西湾の川尻川河口干潟、河北潟周辺などで毎年記録されるが、ほとんどが単独での渡来で数は少ない。

生態

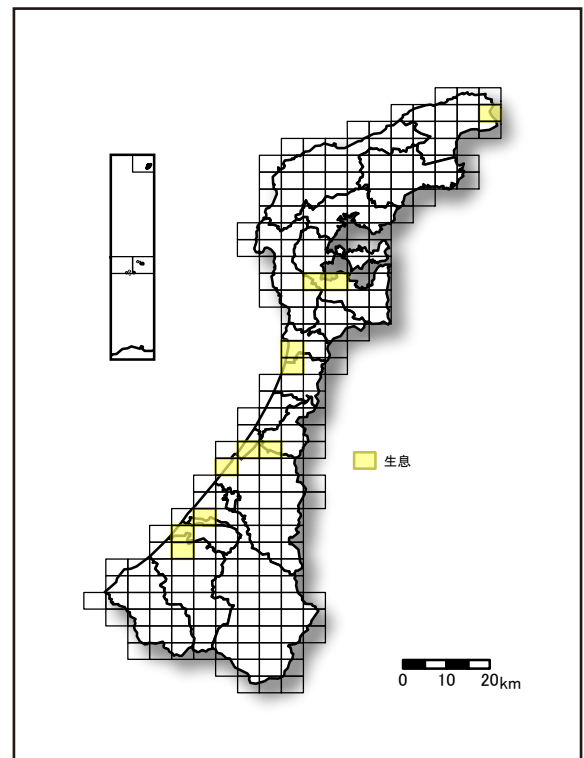
ウスリー地方とカムチャッカ地方で繁殖し、フィリピン、インドネシア、オーストラリアなどで越冬する。繁殖地では湖沼畔の湿地に2～3つがいの小さなコロニーをつくって営巣する。一腹卵数は4個。渡りの時には海岸や湖岸の干潟に生息し、海岸近くの水田や埋め立て地の水たまりなどにも入る。長い嘴を泥に差し込んで、環形動物、軟体動物、甲殻類などの小型水生無脊椎動物を食べる。

生息地の条件

本来干潟を好む種だが、県内でまとまった面積の干潟は七尾西湾の川尻川河口干潟ぐらいしかなく、本種の生息に適した環境はごく少ない。

生存の危機

今のところ毎年記録されているが、唯一といってよい定期渡来地の七尾西湾の川尻川河口干潟の環境悪化などにより、将来渡来しなくなることが懸念される。(A)



県内の分布